

たからづかしの家計簿

「令和6年度決算」と
「これからの財政」について
分かりやすくご紹介します！

- 01 よさん けっさん 予算と決算って？ 01
- 02 市の会計の種類って1つじゃないの？ 02
- 03 いくらくらいお金の出入りがあったの？ 03
- 04 うちわけ 入ってきたお金の内訳は？ 04
- 05 ないよう どんな内容にどのくらいお金を使ったの？ 05
- 06 どんな目的にどのくらいお金を使ったの？ 06
- 07 具体的にどんなところにお金を使っているの？ 07
- 08 もっと身近な数字にできないの？ 10
- 09 ローン残高の内訳は？ 11
- 10 ちよきん ききん 貯金（基金）はどのくらいあるの？ 12
- 11 いっばん じょうきよう 一般会計以外の会計の状況は？ 13
- 12 はか 市の状況を測るものさしはないの？ 14
- 13 これからたからづかしの財政はどうなっていくの？ 16
- 14 これからたくさんのお金がかかる事業 17

01

よ さん けっ さん
予算と決算って？

まず「予算・決算」とは、「予算」が使う見込みを表すものであるのに対し、「決算」
は予算を上限として市民サービスを行った結果の数字となります。

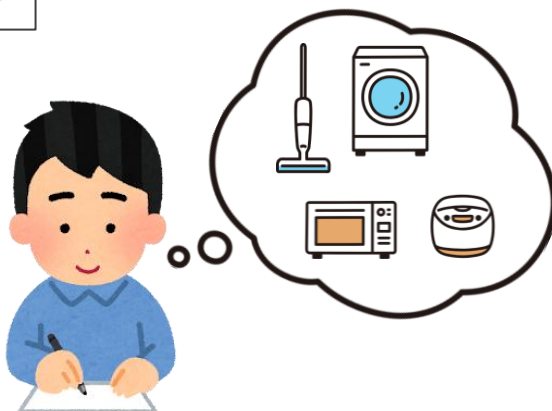
一般家庭で例えると、

予算は、「食費にいくら、家電にいくら」とあらかじめ計画すること
決算は、実際に使ったお金のこと

をいいます。

はじめに、令和6年度決算を基に市の財政を説明していきます。

予算



決算



02 市の会計の種類って1つじゃないの？

市の会計はいくつかに分かれています。1つだけの方が分かりやすいのかもしれませんが、例えば市民の中でも一部の方だけが加入している国民健康保険に関する収入と支出は、その他の一般的なお金と分ける必要があるため、会計を分けています。

一般家庭で例えると、生活していくためのお金とその他の目的のお金を別に管理していることと似ています。

特別会計

- 国民健康保険事業費
- 国民健康保険診療施設費しんりょうしせつひ
- 介護保険事業費かいご
- 後期高齢者医療事業費こうきこうれいしゃいりょう
- 財産区（9財産区）ざいさん
- 宝塚市営霊園事業費しえいれいえん

いっばん 一般会計

こうえいきぎょう 公営企業会計

- 水道事業会計
- 病院事業会計
- 下水道事業会計

*自治体によって一般会計と特別会計の分けかたが違うため、他自治体と比較できるよう全国的に統一の基準で作る仮想の会計として「普通会計」があります。

宝塚市では概ね 一般会計+宝塚市営霊園事業費 = 普通会計となります。

03 いくらくらいお金の出入りがあったの？

では、次に3つの会計の内、一番代表的な一般会計の決算状況について解説します。一般家庭でも家計簿をつけるとどんな項目にどれだけお金を使ったのかを客観的に見られるように、市の決算を見ることで市が過去1年間で、どんな市民サービスにお金を使ったのか、またどんなお金が入ってきたのかがわかります。

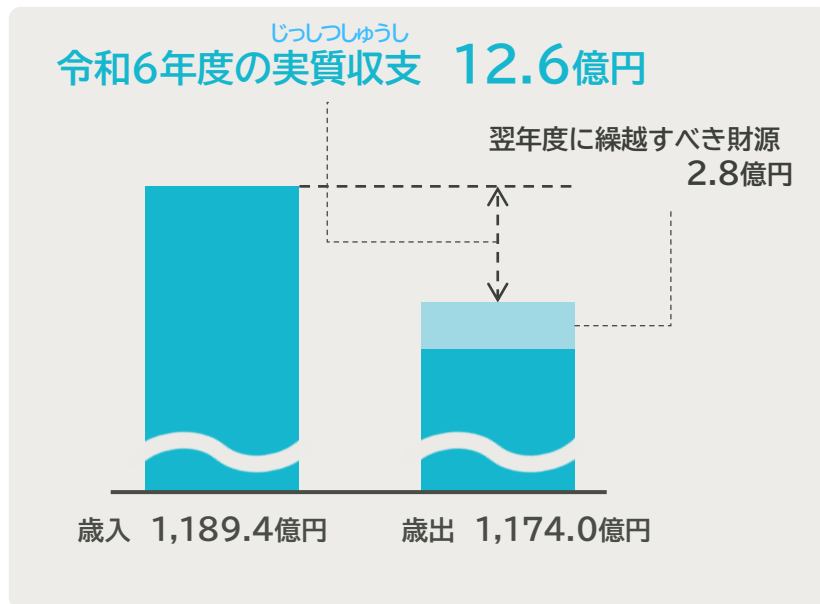
入ってきたお金（歳入）1,189.4億円

－ 使ったお金（歳出）1,174.0億円 = 15.4億円

ただし、この15.4億円の中には来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰越すべき財源）が2.8億円あることから、実際の令和6年度収支（実質収支）は、

$$15.4\text{億円} - 2.8\text{億円} = 12.6\text{億円}$$

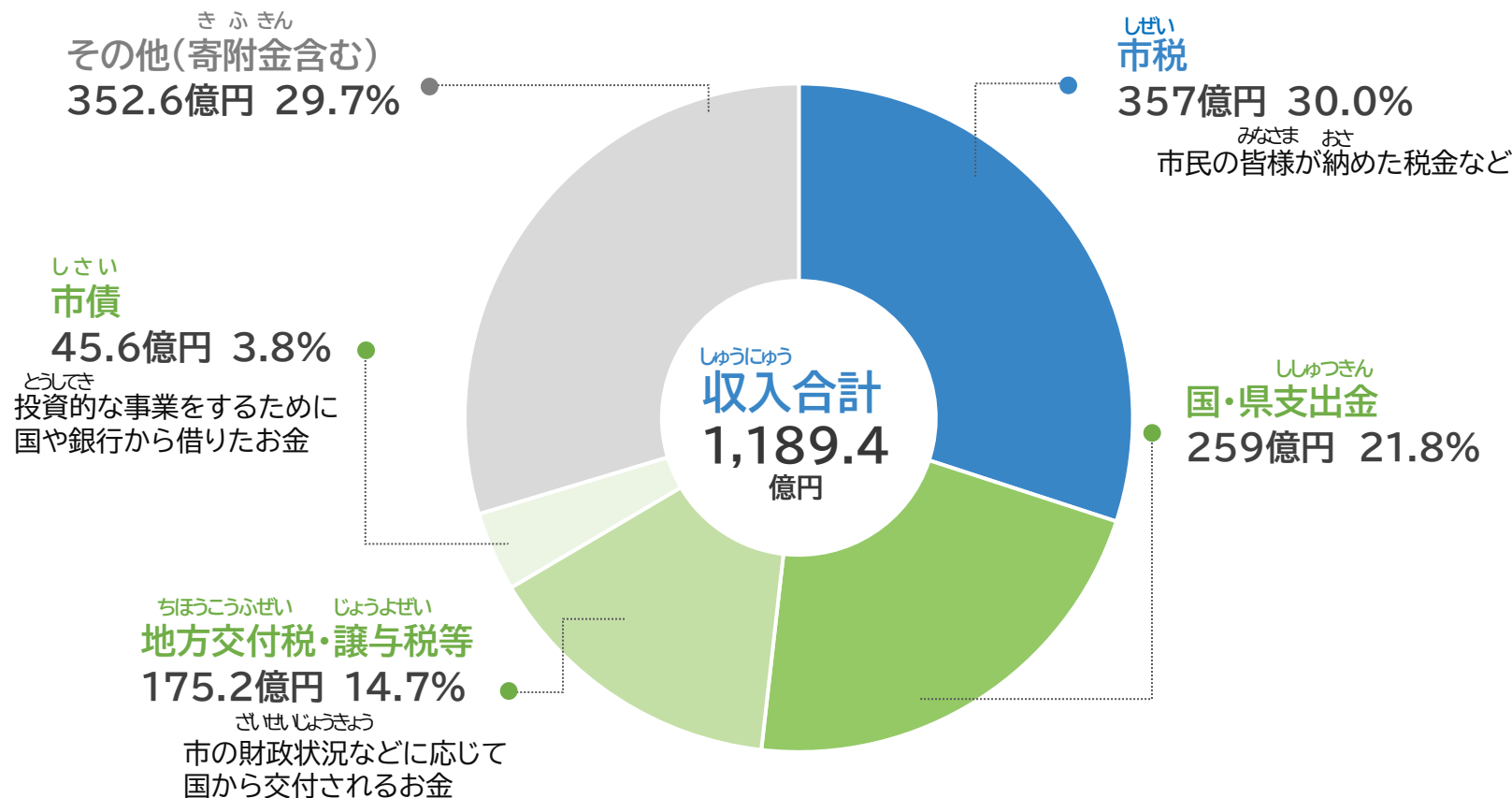
となり、使ったお金より、入ってきたお金の方が 12.6億円多かったということになります。



Q 「翌年度に繰越すべき財源」とは、どんなお金のことですか？

入ってきたお金（歳入）から使ったお金（歳出）を引いたものを形式収支と言います。この形式収支の中には、その年度中に完了し支払いも終わる予定としていましたが、何らかの理由で年度末までに工事等が完了せず、支払いが翌年度になるものがあります。そういったお金を翌年度に繰越すべき財源として計上しています。

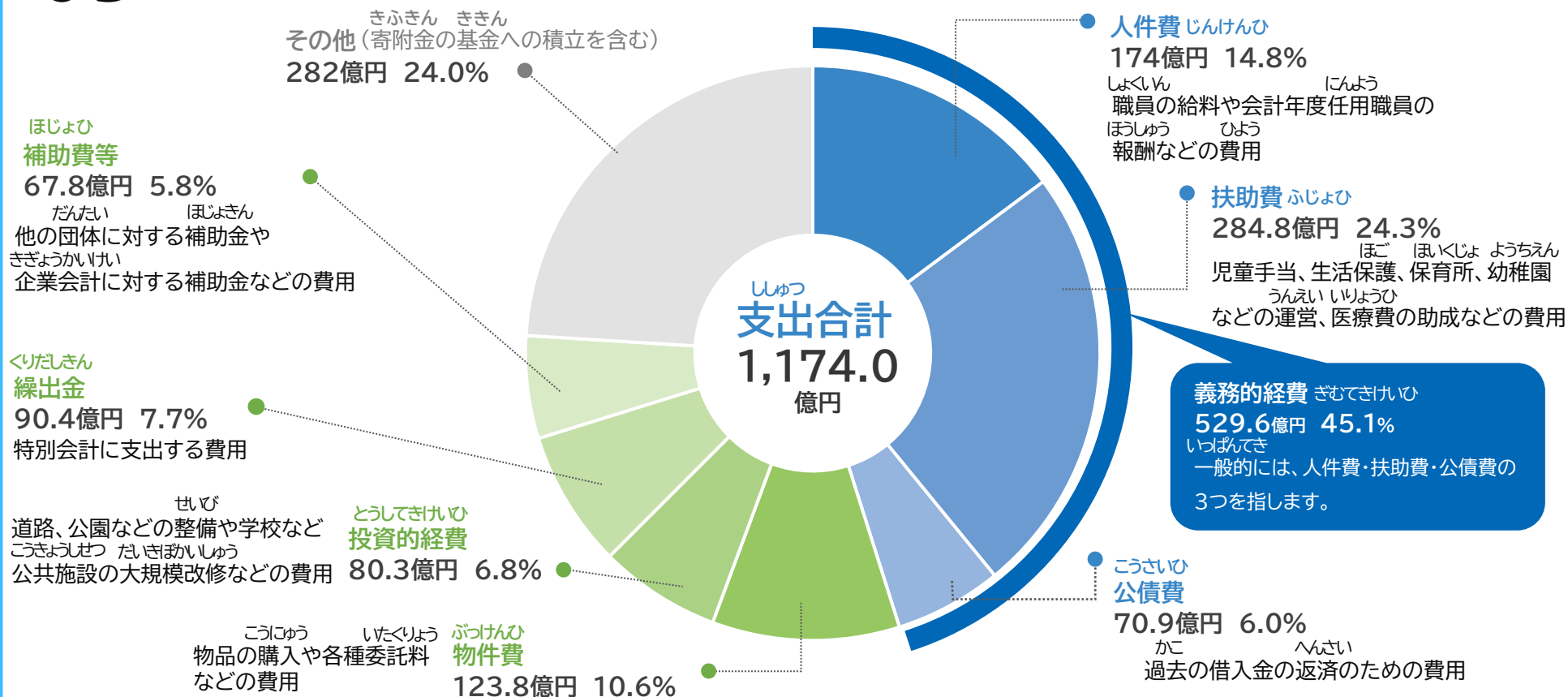
04 入ってきたお金の内訳は？



Q 入ってきたお金の内訳として、どんな特徴がありますか？

歳入の根幹である市税の割合は、ここ数年国から交付される補助金や地方交付税の割合が多くなっていることから、30%~40%程度となっています。また令和6年度は、市立病院を建て替えるための多額の寄附金をいただいたことから、その他(寄附金含む)の割合が大きく増加しました。

どんな内容にどのくらいお金を使ったの？（性質別）



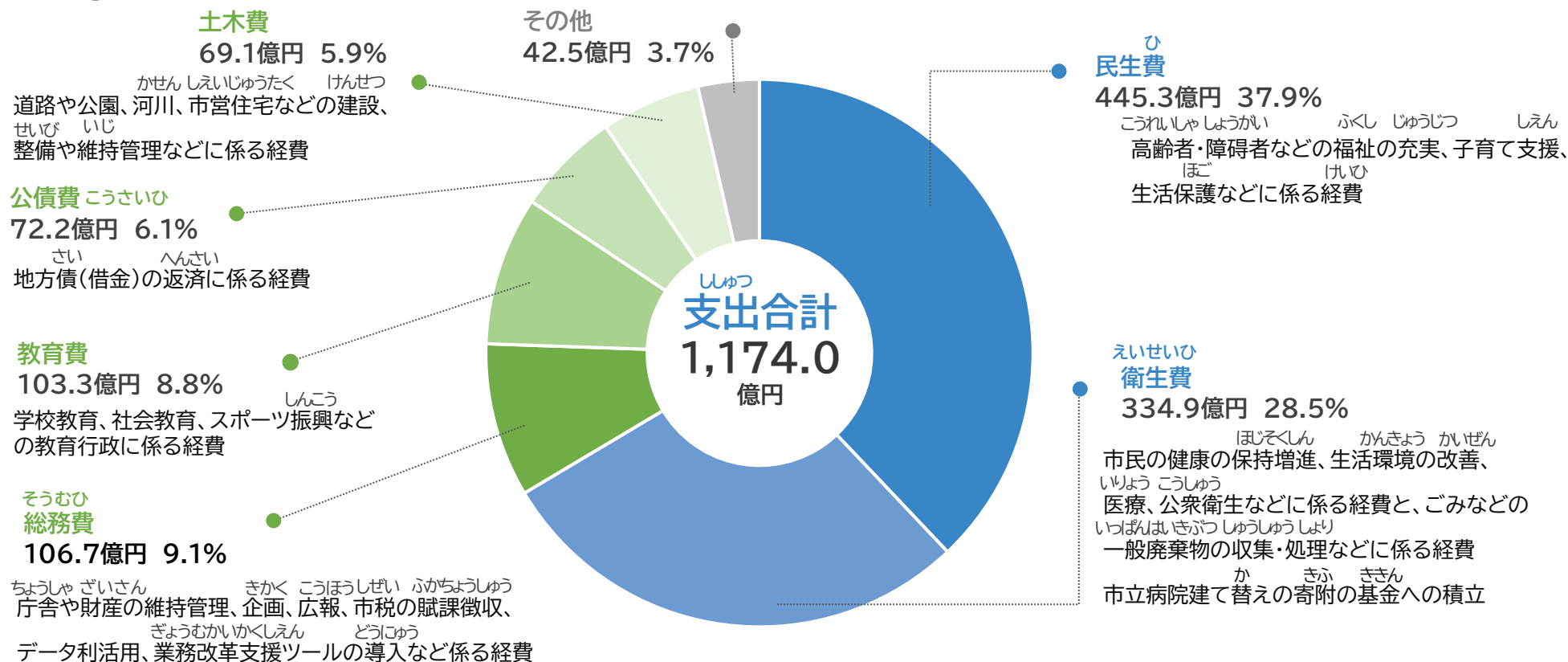
Q

「義務的経費」ってなんですか？ 「義務的経費」が多いとどうなるのですか？

義務的経費とは、簡単には減らすことのできない経費のことであり、予算に占める義務的経費の割合が高いということは、予算の自由度が狭くなり、まちづくりやその他の行政サービスを行うことが難しくなるという影響があります。多くの自治体と同様、宝塚市でも義務的経費は増加傾向にあり、財政を圧迫しています。特に扶助費や繰出金については、高齢化率の上昇により、今後も増加が見込まれています。

06

どんな目的にどのくらいお金を使ったの？（目的別）



Q

前年度と比較すると、どうなの？

令和5年度の支出合計927.9億円と比較すると、令和6年度の支出は26.5%の増になりました。

特に、民生費においては、障害福祉サービスや子育てに関する経費などにより17.2億円増加し、衛生費においては、市立病院建て替えの多額のご寄附を貯金に積み立てたことなどにより216.6億円増加しました。

07 具体的にどんなところにお金をつかっているの？

身の回りで、どんなところにお金を使っているのか、いくつかご紹介します。（グラフ内の額は、市民一人あたりの額）

しょうがいふくし しょうじつ
障害福祉サービス等の充実にすること ————— 157億2,410万円

障害福祉サービス

いりようひじょせい
障害者医療費助成

しえん
障害児通所支援 等



69,219円

ようじ
子育てや保育・幼児教育の充実にすること ————— 156億9,033万円

児童手当

保育所助成金

にゅうようじ
乳幼児等医療費助成

おうえんぎゆうふ
子育て世帯応援給付 等



69,070円

ようちえん
小・中・特別支援学校、幼稚園等に関する事 ————— 103億2,869万円

小・中学校の運営

特別支援学校の運営

幼稚園の運営 等

45,468円



こうれいしゃ

高齢者へのサービスに関すること

79億8,558万円

かいご いりようひ くりだしきん
介護サービスや医療費への繰出金

高齡者バス・タクシーうんちん運賃助成

じゅうたくかいぞうじょせいせいで
住宅改造成助成制度 等

35,153円



ごみの処理しやりやリサイクルに関すること

33億532万円

しゅうしゅう
ごみの収集

げんりようか しげんか
ごみの減量化や資源化

しせつ せいび
新ごみ処理施設の整備 等

14,550円



道路や橋いじの維持・管理に関すること

34億2,616万円

きょう ほしゅう
道路や橋りょうの維持補修工事

街路灯の整備工事

たいさく
通学路の安全対策工事 等

15,082円



きゅうきゅう しょうぼう

救急、消防に関すること

28億5,496万円

すみれ防災スピーカー(防災行政無線)

しょうぼう

防災情報システムの運用

きゅうめいこうしゅう

救命講習 等

12,568円



公園の^{いじ}維持・管理に関すること

7億6,462万円

せいそう じょうそう いたく
公園の清掃・除草等の委託

かいろうじゅ せんてい
街路樹の剪定

ほしゅうひ
公園の維持補修費 等

3,366円



まちの^{にぎ}賑わいづくりや商工業の^{はってん}発展に関すること

5億3,226万円

しせつ
観光施設の維持管理

おんせん
温泉施設の管理

しえん
起業の支援 等

2,343円



08 もっと身近な数字にできないの？

市の決算は言葉が難しかったり、額も大きすぎて、イメージしづらいかと思います。イメージを持っていただくため、ここでは月収42万円（年収約500万円。貯金の取り崩し、ローンの借入などを含む。）の家庭の家計簿に置き換えてみます。

収入		支出	
給与	29 万円	食費 (人件費)	6 万円
うち基本給 (市税・地方譲与税等)	15 万円	医療費・育児費 (扶助費)	10 万円
うち諸手当 (地方交付税・国県支出金等)	14 万円	ローンの返済 (公債費)	3 万円
臨時収入 (寄附金)	9 万円	光熱水費・通信費 (物件費)	4 万円
貯金の取崩など (繰入金等)	1 万円	家の修理・家電購入 (投資的経費等)	3 万円
ローンの借入 (市債)	2 万円	家族などへの仕送り (補助費、特別会計への繰出金等)	6 万円
前月からの繰越 (繰越金)	1 万円		
合計	42 万円	合計	32 万円
		ローン残高 (地方債残高)	280 万円
		預貯金残高 (基金残高)	183 万円

家計簿を分析してみよう！

医療費・育児費の割合が大きいです。諸手当（寄附金・国県支出金等）により、家計負担は抑えられています。

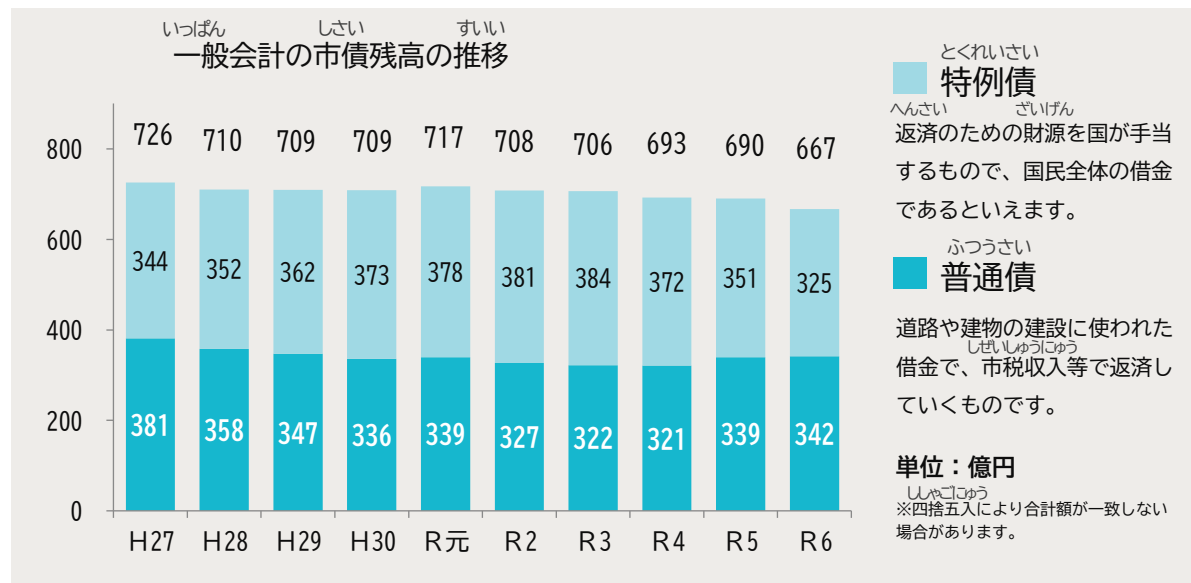
しかし、医療費・育児費の増加や、家や家電が古くなっているため、今後は今まで以上に家の修理や家電の買い替えが必要となっている状況です。

現在、新たに借りるローンの返済に備えて計画的に貯金（基金）を増やしているところです。

※実際には、家計とは収入・支出などの構成や考え方は大きく違うため、本来は置き換えることはできませんが、仮に置き換えた場合という視点で作成しています。



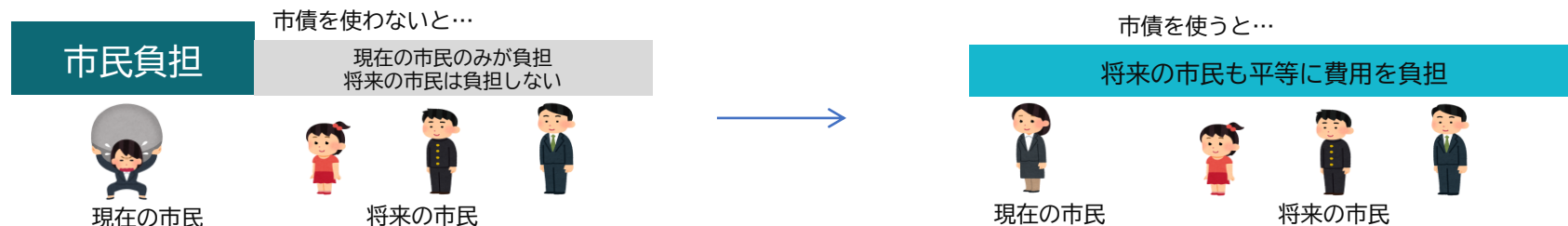
ローン残高については近年ほぼ横ばいうちわけです。内訳としては、特例債が半分程度になっていますが、これはローン返済相当額を国が後年度に交付税として100%渡してくれる制度であり、他のローンとは性質が異なります。



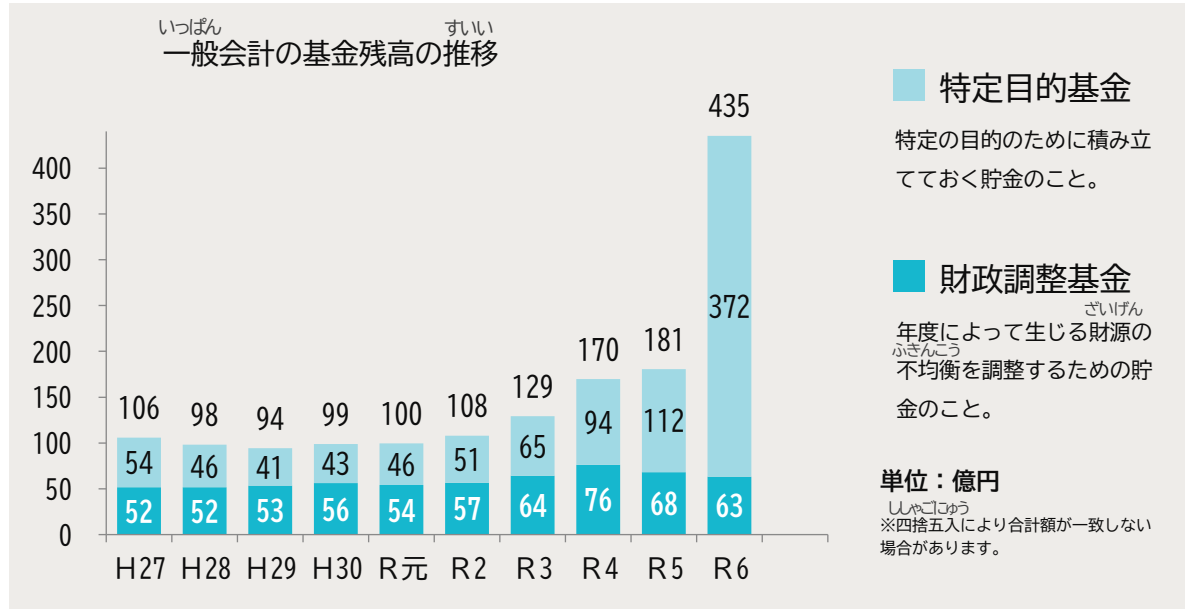
Q

どうしてローンを組むの？

市が公共施設や道路等を建設する場合、一時的に多額の資金が必要となります。その年度だけの収入で賄うと、他の行政サービスが市民の皆さんに提供できなくなるかもしれません。また、そういった施設は将来にわたって何世代もの方が利用します。その負担を現役世代だけではなく、将来世代も負担し、市民負担の公平性を保つ観点からローンを組んで事業を行っています。このローンのことを市債と呼びます。



いっぱん
 一般家庭でいう貯金にあたるものを市
 では基金と呼びますが、その基金の残高
 は次のグラフのとおりです。令和6年度
 は、^{ざいせい}財政調整基金をたくさん取り崩した
 ことで^{げん}減少したものの、^{しせつ}公共施設等整備
 基金（^{ほぜん}施設の^{ろうきゅうかしゅうぜん}老朽化修繕などの際に
 取り崩して使う基金）や病院建て替えの
 基金などへの積み立てを行ったことで基
 金残高が増加しました。



Q

どうして基金が必要なの？

一般家庭でも教育や旅行など、^{ちよちく}貯蓄目的を分けて積み立てることもあるかと思います。同じように市の基金もお金のやりくりをするための^{ぎやうせい}財政調整基金や決まった目的のために積み立てている^{ていきやう}特定目的基金等があります。また、安定した行政サービスを提供するために、^{さいがい}災害時や^{けいざいじやうせい}経済情勢の悪化など^{そく}不測の事態に^{じたい}備えておく必要もあります。

とつぜん

突然の災害や、経済情勢の悪化



財政調整基金



建物の維持管理や緑化対策など



特定目的基金

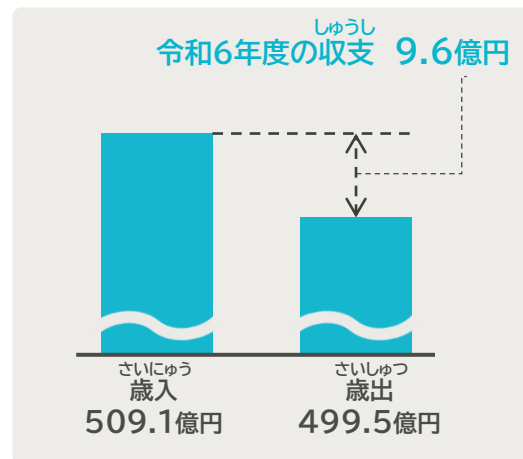


一般会計以外の会計の状況は？

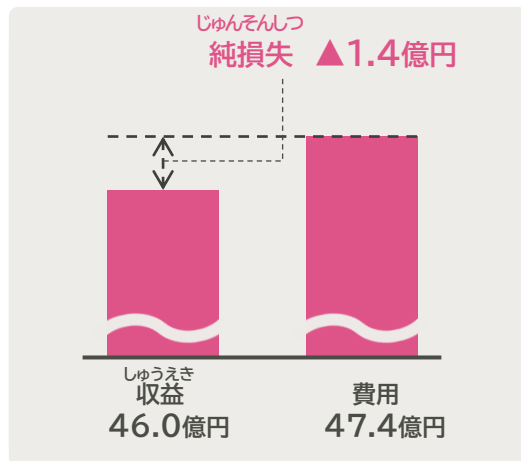
特別会計の状況

令和6年度の収支は、来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰越すべき財源）はなかったことから、9.6億円のプラスでした。

主なものとしては、国民健康保険事業費が4.3億円、後期高齢者医療事業費が2.4億円、介護保険事業費が2.7億円の収支プラスとなりました。

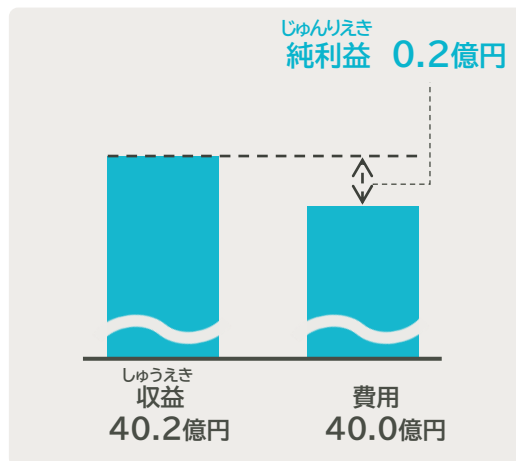


水道事業の状況



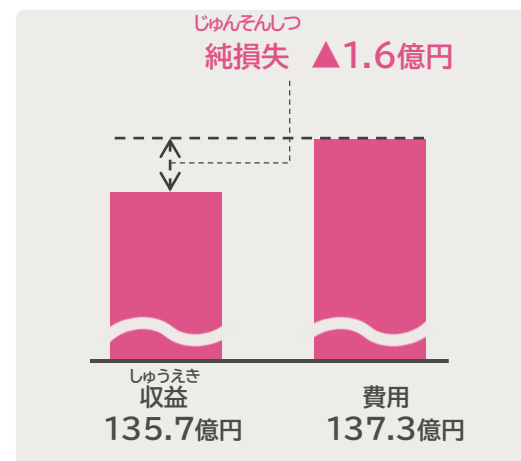
6年連続の赤字で、1.4億円の純損失となりました。

下水道事業の状況



黒字で、0.2億円の純利益となりました。

病院事業の状況



赤字で、1.6億円の純損失となりました。

市の状況を測るものさしはないの？

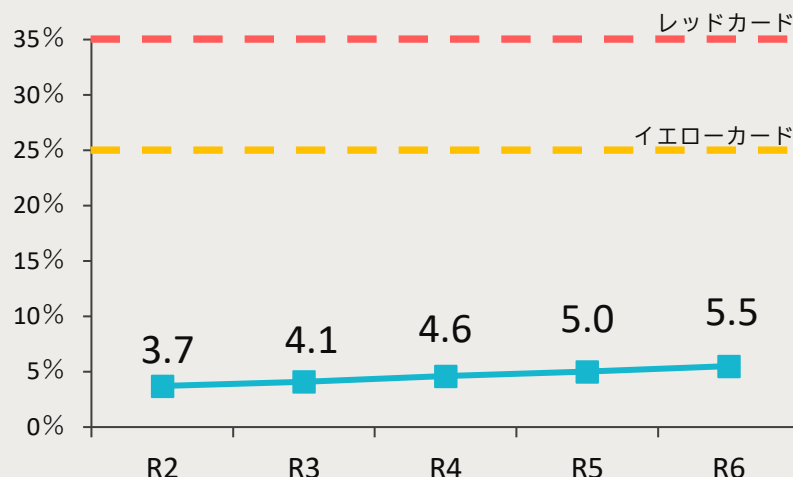
一般家庭でもローンの審査を受ける時に、所得やローン状況等を金融機関にチェックしてもらい融資を受けることになると思います。それと同じように市でも一定の基準を満たしていないと新たな借金ができないなどの国のチェック機能（健全化4指標）や財政的な自由度・余裕度を表す経常収支比率という数字などがあります。

じっしつこうさいひひりつ 実質公債費比率

年間収入に対し、借金の返済額が占める割合を示すものです。家計に例えると、年収に占めるローン返済額の割合をいいます。令和6年度は、前年度に比べると0.5ポイント悪化し、5.5%となりました。

5.5%

※法令上、25%以上になると早期健全化基準というイエローカード状態。35%以上になると財政再生基準というレッドカード状態。



じっしつあかじひりつ れんけつじっしつあかじひりつ 実質赤字比率/連結実質赤字比率

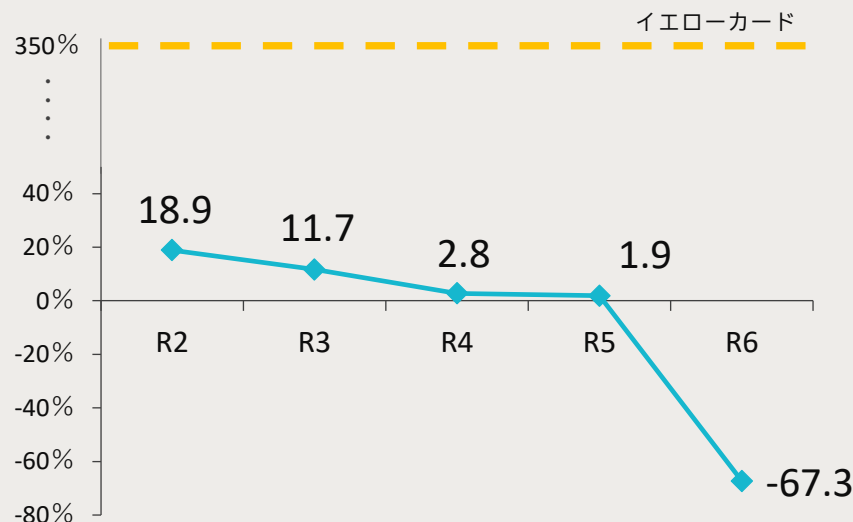
実質赤字比率は一番身近な財布である一般会計等が赤字かどうかを示すものをいいます。

連結実質赤字比率は一般会計・特別会計・公営企業会計の3つの財布全体で赤字かどうかを示すものをいいます。

赤字は発生していません

しょうらいふたんひりつ 将来負担比率

今後返済が必要な借金等の総額が、収入の何倍に相当するかを示すものです。家計に例えると、家や車のローン残高に一人暮らしをしている子どもや家族への生活支援費などを加えた合計額が年収と比べてどれくらいあるかの割合をいいます。令和6年度は、多額の寄附金の影響もありマイナス67.3%となりました。



マイナスのため
表記なし

※法令上、350%以上になると早期健全化基準というイエローカード状態。

けいじょうしゅうしひりつ 経常収支比率

人件費・扶助費・公債費などの経常的な経費が、地方税・地方交付税・地方譲与税などの経常的な収入に占める割合をいいます。この割合が高いと突発的な支出に対応できる弾力性が低い状態と言えます。令和6年度は昨年度より1.1ポイント悪化し96.9%となりました。

96.9 %

13 これからたからづかしの^{ざいせい}財政はどんなっていくの？

たからづかしの人口

全国的に人口減少^{げんしょう}や少子高齢化^{こうれい}が進んでおり、これは宝塚市にもあてはまります。

働く世代^{しせい}の人が減ったり高齢者が増えたりすることで、市税などの入ってくるお金が大幅^{おおはば}に増えることは見込めず、逆に、介護費^{かいごひ}や医療費^{いりようひ}などで出ていくお金が今までより増えていくことが予想されます。



たからづかしにある建物や道路（公共施設^{しせつ}）

みなさんの生活に必要な学校や道路、図書館などをはじめとする建物は、何十年も使えるものです。古くなった施設^{いじ}を今後^{しゅうぜん}も使い続けられるように維持していくには、修繕などに毎年たくさんのお金がかかっていて、これは今後さらに増えていく見通しです。

今の厳しい財政状況^{きび}や人口^{じょうきよう}がこれから先減っていくことから考えると、今ある施設^へ全てを維持し続けることは難しいため、施設の数^{むずか}を減らしたり、使い方を工夫したりする必要があります。



14

これからたくさんのお金がかかる2つの事業

宝塚市のごみ処理施設は、完成してから30年以上、市立病院は40年以上経っていて、とても古くなっているため、建て替える必要があります。

1. 新ごみ処理施設の建設

ごみ処理施設は、令和5年度から本格的な建て替え工事が始まっていて、物価高騰（働く人に支払う給料や材料、物を運ぶ値段が高くなること）の影響を受けて、契約の変更を行い、完成までには現時点で総額約510億円のお金がかかると見込んでいます。

令和14年度での完成を目指して、工事を進めています。



※新しいごみ処理施設の完成イメージ

2. 新病院の建設^{けんせつ}

市立病院については、現在建て替えについて検討しています。建て替えにかかる事業費（試算）は約397億円を見込んでいます。多額のご寄附をいただき、負担は大幅に軽減しましたが、本市の財政状況に大きな影響を及ぼします。

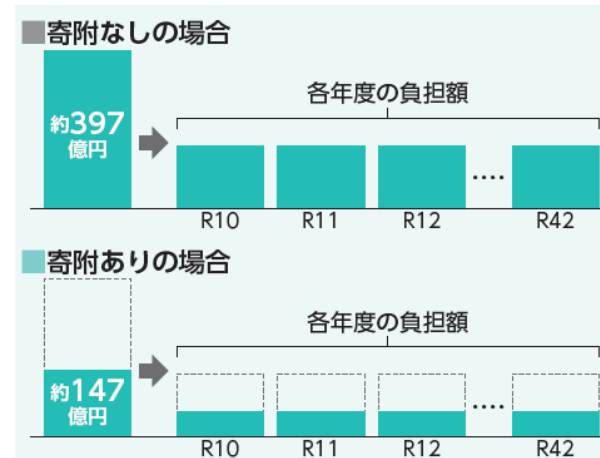
※現在の市立病院



Q 寄附金のおかげでどう軽減したの？

新病院建設には約397億円かかります。寄附金250億円を使っても約147億円の負担は残ります。この147億円については、病院が借金をして、病院と市が半分ずつ返済することになりますが、寄附金のおかげで、病院も市も1年あたりの負担額が大きく軽減されます。

（寄附金は新病院建設のためだけに使われ、それ以外の目的には使えません。）



さいごに、 たからづかしの「これから10年間」を考えます。



区 分	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 (2033年度)	令和16年度 (2034年度)
① 市に入ってくるお金の予算	550.5	548.4	553.2	558.9	563.1	564.6	567.6	571.9	573.9	576.5
② 市から出ていくお金の予算	563.8	588.0	579.7	579.5	586.8	588.5	590.9	592.3	593.1	596.3
③ 予算での収支の差(①-②)	△ 13.3	△ 39.6	△ 26.5	△ 20.6	△ 23.7	△ 23.9	△ 23.3	△ 20.4	△ 19.2	△ 19.8
④ 決算までに使わなかったお金	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7
⑤ 決算での収支の差(③+④)	3.4	△ 22.9	△ 9.8	△ 3.9	△ 7.0	△ 7.2	△ 6.6	△ 3.7	△ 2.5	△ 3.1
収入と支出の差額の積上げ額	3.4	△ 19.5	△ 29.3	△ 33.2	△ 40.2	△ 47.3	△ 53.9	△ 57.6	△ 60.1	△ 63.2

※新しいごみ処理施設の建て替えのお金が含まれています。

※現在の病院の老朽化対応工事のお金と、新しい病院の建て替えのお金(見込)が含まれています。

この表は、令和7年度から10年先までの、宝塚市の^{しゅうし}収支の^{みこ}見込みです。

数字が並んでいて少し^{むずか}難しいかもしれませんが、これまでのページでお伝えしてきたような^{きび}厳しい^{じょうきょう}状況の中で、何も^{けいえい}取組をせずに今のままの経営を続けたとすると、10年後には、全体で約63億円ものお金が不足してしまいます。

このような未来にならないために、「あたらしい時代への^{てんかん}転換」という視点にたち、市が行っている全事業を^{てんけん}点検・整理し、お金の使い方や事業のやり方を見直すなどして、宝塚市の経営がこの先もずっと続けられるように取り組んでいます。



財政見通しの^{しやうさい}詳細はこちら →

(市ホームページ「財政見通し(令和7年5月作成)」へリンク)

